

今、後期クラス役員の皆さんを任命しました。HR委員、体育委員、保健委員、図書委員、そして生活美化委員の皆さんです。自分から積極的に希望してその仕事を買って出た人もいれば、人に推薦されたり、多数決で選ばれたりの、仕方がないと思って引き受けた人もいるのではないのでしょうか。

しかし社会生活を営む上で大切なのは、それぞれの組織が円滑に機能するために、中心となってお世話をする人が必要になるということです。例えば、十月二十七日に行われる中央祭を毎年盛り上げてくれる取組「PTA食物バザー」があります。今年もPTA評議委員の中の文化祭を担当していただくお母様方が中心となって準備を進めてくださっています。この方々が献身的にお世話をしてくださるので、皆さんが心待ちにしている食物バザーが可能になるのです。

学級という組織でもそれぞれの委員の皆さんが責任をもって係の仕事をやってくれることで学級がまとまり、ひいては夏間部全体が充実していくこととなります。終業式でも話しましたが、「人のために尽くす」ことは「自分自身の成長にもつながる」のです。クラスのため、学校のため、そして自分自身のためにも与えられた任務を全うするよう期待しています。

話は変わります。体育大会の開会式で少し触れましたが、体育大会当日の早朝、たしか五時二十分頃だったと記憶していますが、アルゼンチンのブエノスアイレスで開催された「IOC総会（国際オリンピック委員会）」で二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決定しました。当日は天候が悪く、体育大会が無事に実施できるかと、朝四時過ぎから空を眺め、また、オリンピックの開催地がどうなるのかと、トキドキしながらテレビ画面に目をやっていったのを記憶しています。

最初の東京オリンピックは一九六四年に開催されましたので、実に五十六年ぶりに日本で二度目の夏季オリンピックの開催ということになります。冬季も併せて日本では四度目のオリンピック開催です。

一九六四年というと私は小学校五年生でした。授業はそっこのだけでテレビ観戦が許されていたものでした。女子バレーが金メダルを獲得した瞬間、柔道無差別級で神永選手がオランダのヘーシンク選手に押さえ込まれた瞬間に響き渡った悲鳴、マラソンの田谷選手とイギリスのヒートリー選手の国立競技場内でのテッドヒートなどと、多くの名場面が今でも鮮明に記憶に残っています。

まさかもう一度日本で夏季オリンピックが開催されるとは思っていませんでした。これまでに夏季オリンピックを二度開催した都市は四つしかありません。アテネ、パリ、ロンドン、ロサンゼルスのみです。東京は二度開催する五番目の都市ということになります。これらの都市に共通する点は、経済的に安定し、しかも安全であるということです。オリンピックを二度開催することができる東京を首都とする日本に生まれ育ったことを幸せに思わなければなりません。

二〇二〇年、私は六十七歳になっています。可能ならば、世界中から集まるアスリートの躍動する姿、鍛え抜かれた選手たちの競技に打ち込む姿を直接この目で観戦したいと思っています。皆さんは二十歳から二十五歳でしょうか。中には東京や関東方面で生活をしている人もいることでしょう。せっかくの機会ですので観戦者として、あるいは何らかの形で、例えば選手村や試合会場のスタッフとして、このオリンピックにかかわることができれば一生の宝、思い出になるかもしれません。七年後の東京オリンピックを楽しみにしましょう。

さあ今日から後期のスタートです。平成二十五年の折り返しです。先週の前期終業式でも触れましたが、人生の最大事は仕事に就くことです。これからどう生きるか、どんな人生を歩むか、真剣に考え、定めた目標に向かって邁進してやることを期待して私の話を終わります。